

住みよいまちづくり情報誌

Vol.56

令和5年9月1日

発行 住みよいまちづくり新莊会
(水戸市新莊市民センター内)
(〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
Tel.029-221-7851

責任者 住みよいまちづくり新莊会
会長 川又 一郎

編集 新莊会広報部

印刷 常磐総合印刷株式会社
題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 2,952

男 2,715 女 2,876 合計 5,591 (令和5年7月1日現在)

年齢別人口

0～14才 511 (9.1%) 15～64才 3,148 (56.3%)

【参考値】

65才以上 1,932 (34.6%)

(令和5年7月1日現在)

第22回 新莊夏まつり開催

新莊地区の 交流の輪を広め 心ひとつに



4年生



3年生



2年生



1年生

7月30日(日)、新莊小学校校庭において、新莊夏まつりが4年ぶりに開催されました。天候は朝から例年にない猛暑日となり、開催時間の最高気温は37度でした。

15:30から開会式、4～1年生の紹介に続き、各テントにおいて例年どおりの13の模擬店と面白い様々なゲームコーナーが一斉にオープンし、アトラクションとして管楽合奏、民謡踊り、チア・ダンス、中南米音楽、サッカー、最後にフィナーレの花火などの催しが行われ、19:30の日没に終了しました。

例年と変わらぬ約2,500人も多くの住民の皆さんが会場いっぱいに来場し、猛暑の中、汗をかきながら和気あいあいと夏まつりを楽しみ、久しぶりに新莊地区の交流の輪を広めることができました。



新莊小管楽合奏部



主催者及び来賓の皆様



水商チア・ダンス

新莊会ホームページの紹介

新莊会や関係団体からの回覧等のお知らせをいち早く掲載しますのでご利用下さい。

名称「水戸市新莊地区地区会
住みよいまちづくり新莊会」

住みよいまちづくり新莊会

検索

※検索のほか、QRコードからもアクセスできます。



はまゆう会



茨大中南米音楽



6月29日、7月11日の2日間、新莊市民センターホールにおいて新莊地区地域の団体及び事業所、企業、大学等31人が参集し、いきいきコミュニティトークが5年振りに社会福祉協議会(社協)主催により開催されました。

このトークでは、幾つかのグループにわかれ、初日に新莊地区での課題など、二日目には特に3世代交流、人材育成の方策などについて提案されました。

この内容は今後、社協が市全体の取りまとめを行い、検討する予定です。



コミュニティトークでの発表の様子

新莊地区地域
いきいきコミュニティ
トーク開催

令和5年度 第二回 ユニカール大会で 和気あいあい

結果	
優勝	龍崎・寺門・竹貫チーム
二位	三田部(志)・袴塚・川又(健)チーム
三位	佐川・松枝・松枝・松枝チーム

5月21日(日)、新莊小学校アリーナにおいて23名が参加し、7チームによる和気あいあいゲームを楽しみました。

7チームによるトーナメント実施

令和5年度 合同総会 (五月十三日)

新莊市民センターで、住みよいまちづくり新莊会と社会福祉協議会新莊支部の合同総会が開催されました。



高橋市長あいさつ

新莊地区町内会長37名を含む80名が出席し、令和4年度事業報告、収支報告及び令和5年度事業計画、収支予算が承認されました。役員は社会福祉協議会新莊支部の改選がありました。

開会のあと、市民憲章唱和、水戸市歌斉唱、川又会長主催者あいさつに続き、来賓として高橋市長などよりごあいさつをいただきました。

また、総会後、50名が参加し、市民センター定期講座「ふるさと歴史講座」の永井博先生に、「NHK大河ドラマ「晴天を衝け」徳川慶喜と渋沢栄一」と題し、ご講演をいただきました。

令和5年度・令和6年度社会福祉協議会新莊支部の新役員は次のとおりです。

支部長 青木 實
副支部長 飛田美江子、笹島 隆治
理事 袴塚 禮子、青山 道隆
郡司 新一郎、川又 健志、
天谷 久、渡邊 委子、
名越 光江、佐藤ひろみ、
仙波 雅江、岩淵 延子、
川村 康子、若松 友江、
松枝 道子、佐川 孝之、
鈴木 照子、大津 洋子、
小椋 恭子、佐倉富美江、
監事 長谷川泰子、小瀧みさ子、
会 計 湊 弘一郎、川上 利通

注：【新】の表記のある役員は令和4年度以降に
着任された方々です。

(来賓)

水戸市長……………高橋 靖様
水戸市議会議員……………袴塚 孝雄様
水戸市社会福祉協議会常務理事……………小泉 直紀様
新莊市民センター所長……………中村 哲也様
末広老人福祉センター所長……………光又 美恵様



社会福祉協議会新莊支部審議風景

今年度の新莊地区の主な行事

- 新莊夏まつり …………… 7月30日(日)
- 福寿のつどい …………… 9月18日(月)
- 市民運動会 …………… 10月7日(土)
- 歩く会 …………… 11月12日(日)
- 新莊ふれあいまつり …… 3月3日(日)



女性の会 支部長紹介

第8回 水戸黄門漫遊マラソンを応援しよう!!

来る十月二十九日、新莊会はマラソン応援を前年同様実施します。種目はフルマラソンで、応援は往路のみ実施します。町内会等、多くの参加をお願いします。

- 一、応援場所
大工町旧フクダヤ前〜神応寺前
〜雷神宮前
- 二、応援時間
8時45分〜9時30分
〔9時2分頃(南町2丁目スタート)〜最終走者通過まで〕

NHK大河ドラマ「晴天を衝け」徳川慶喜と渋沢栄一

講師 県立歴史館史料学芸部 特任研究員 永井 博 先生



講師の永井博先生

講師は、県立歴史館史料学芸部の特任研究員をされており、2年前放送されたNHK大河ドラマ「晴天を衝け」における徳川慶喜と渋沢栄一に関する台本の時代考証を担当され、その内容を解説して頂きました。

●ドラマの台詞から振り返る

「晴天を衝け」には、例えば斉昭公が弘道館で長寿の秘訣を述べる台詞、川路が円四郎の出仕のいきさつを述べる台詞など、栄一が残した詳細な逸話が各シーンに取り入れられています。

また、斉昭像は、従来の攘夷を叫ぶ固定観念的描写から進化し、斉昭への誤解を解く工夫をした台詞が各シーンで多く見られる。また攘夷のとらえ方を、流行り病で治まらないといった新しいとらえ方もしています。

●回想から振り返る

ドラマの色々なシーンの描写には、栄一や慶喜たちの回想記が多く取り入れられている。馬上の慶喜を栄一たちが追いかけてたり慶喜に拝謁するシーン、平岡から栄一に篤太夫への改名を言い渡されるシーン等はその一例です。

ここに記述したものは講演の一部に過ぎず、内容は講演資料をご覧ください。くほか、詳細は、渋沢栄一の著した「徳川慶喜公伝」や回想記などもご覧ください。

●ドラマの位置づけとテーマ

徳川慶喜に関わるNHK大河ドラマは、渋沢栄一が残した回想記と莫大な私財を投じた著書「徳川慶喜公伝」を原作として製作され、当初1998年放送の大河ドラマ「徳川慶喜」が作られ、その23年後に集大成の形で「晴天を衝け」が作られました。「晴天を衝け」のテーマは、対称的に身分の違う慶喜と栄一の二人の主人公について、出生と出会い、その後の人生を描くことにあります。

●ロケーションから振り返る

千束原での追鳥狩のシーンは、千本松牧場でエキストラを用いてVFX手法などにより、3日に及ぶ大掛かりな

新莊散策

旧町名シリーズ(4)

新屋敷

旧町名の新屋敷を紹介します。
現在の新莊3丁目と周辺の一部の地域は、江戸時代から昭和43年に町名改称されるまで、俗に新屋敷と呼ばれ、その地域の町名は小路名が付けられておりました。

●新屋敷の由来

新屋敷の名前の由来は、藩主光圀公の時代に遡ります。附家老中山備前守が河和田村の地に土地を賜り、見和新田を開拓し、寛文

6年(1666年)、信治のときこれを幕府に納め、その代替地として、下屋敷に接した馬口旁町南側のこの地を賜りました。

この地は外堀の西側にあって、常葉村に属し、北は馬口旁町(現在、末広町)に接し、東は馬口旁町片町に連なり、南と西は田畑になっていました。信治はこの土地四町に中山の家臣を移して開拓し、新屋敷と名づけました。寛政6年(1794年)頃、中山備前守は家士と共に中手綱(高萩市)に移り、その跡は陸田になりました。

新屋敷は、このとき付けられた名が始まりとされています。

●天保の改革以降

天保7年(1836年)、藩主斉昭公は天保の改革

(財政問題打開)の一環として定府制を廃止し、江戸在住の家臣2500人余のうち200人余に国元帰住を命じました。このときになって再びこの新屋敷の地は武家屋敷とされ、梅・松・楓・柳・花・桜・桃・桐・柏・常磐の10の小路名をつけて屋敷割りが行われ、武家が住みました。この小路名の名称の元は小路の目印に植えられた樹木によったといえます。このときの武家割「楓軒年録」には合計32軒が記されています。新屋敷に住んだ

著名人には、彰考館総裁の豊田彦次郎(字は天功、安政の大獄で死罪となった鶴岡吉左衛門、本草学者の佐藤平三郎、尊王攘夷運動の中心人物となった金子孫二郎、桜田門外の変を指揮した関鉄之介などがありました。

●明治期以降

明治になると小路割は町区画割となって整理され、明治22年、楓小路などの各小路名が町名となりました。

この地には明治になり、県立水戸商業高等学校(水商高)、市立新莊小学校(新莊小)、常磐大学高等学校(常大高)が設立されました。水商高は、明治35年田見小路(現在北見町)に創設された水商高が柳小路と柏小路に移転してきました。柏小路は、町名はあっても民家は一軒もありませんでした。

新莊小は、楓小路に明治36年上市尋常小学校の分校が創立し、同39年本校から独立し上市第二小学校、昭和22年市立新莊小学校となりました。

常大高は、常磐小路に大正11年水戸常磐女学校が開校され、昭和23年常磐女子高等学校となり、平成12年現在の常磐大学高等学校に校名が変更となりました。

桐小路は、明治まで殆ど畑と雑木林でした。
新屋敷の小路名の町名は、昭和43年5月町名改称により、新莊3丁目のほか、一部が新莊1丁目、同2丁目、末広町1丁目、栄町1丁目、同2丁目となりました。
新屋敷の小路名は、柏小路を除く9つが町内会名として現在に引き継がれております。



10 小路からなる新屋敷

【凡例】
青字：旧町名
赤字：現在の町名等

編集委員

川又健志・塩井雅子・岩淵延子

○新莊市民センター○ 新任あいさつ

四月一日付で飯富市民センターより異動してまいりました。地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいります。ご指導よろしくお願ひ致します。



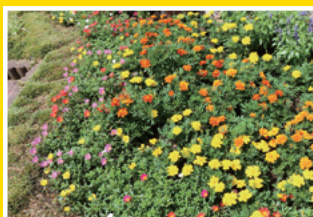
小貫光江

花壇コンクール

- 審査対象花壇
- 砂久保花の会
 - 栄町1丁目
 - (株)吉田石油水戸SS
 - 新莊小学校



新莊小学校



(株)吉田石油水戸SS



砂久保花の会



7月3日 新莊地区花壇コンクール審査会

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が主催する花壇コンクール審査が7月26・27日実施されました。新莊地区からは、町内会・自治会の部で砂久保花の会が努力賞、職域の部で(株)吉田石油水戸SSが優秀賞、小・中学校の部で新莊小学校が優良賞を獲得しました。表彰式は8月17日に水戸市役所で実施されました。